

授業に関する学生・教員交流会

1. 企画趣旨

授業に関する学生・教員交流会（以下、交流会）は、授業アンケートでは拾いきれない学生の直接的な声を聞くことを目的として、年に1回開催されている。2013年度～2017年度は、授業アンケートに関する話題が中心であったが、2018年度からは、授業全般について話題が広がり、2019年度以降は、学びの当事者である学生が主体となる学習環境の改善に話題が及んだ。2020年度、2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応して、交流会自体もZoomで開催された。入学式も挙行されず前期は全面的にオンライン授業、後期より隔週登校となった2020年度は、Zoom授業に関して様々に振り返り、2021年度は、Zoom授業のメリット、デメリットについて討議するだけでなく、ピア・サポート制度についても意見交換した。2022年度は学年によって体験した授業形態、学びの流れが異なる学生が集まっていることも考慮して、オンライン授業と対面授業を振り返り、今後の大学の授業の在り方について意見を出し合った。

表1 授業に関する学生・教員交流会のテーマ（2016年度～2022年度）

開催年度	テーマ
2016年度	授業アンケートをもとにした授業改善について／授業アンケートに関する教員コメントの内容について／その他アンケートについて感じたことや改善点について／学習環境全般について
2017年度	時間割の要望について／授業の進行方法について／授業改善の要望について／授業・講義に関することでその他
2018年度	授業レベルについて／到達目標について／授業外学修について／授業・講義に関することでその他
2019年度	トークテーマ1 学生FDの企画内容／トークテーマ2 学生FDの体制づくり トークテーマ3 学生によるカリキュラム開発
2020年度	トークテーマ1 Zoom授業をふり返る／トークテーマ2 おすすめ授業を共有する トークテーマ3 理想の授業を創ろう
2021年度	トークテーマ1 Zoom授業を振り返ろう／トークテーマ2 困りごとを共有する トークテーマ3 ピア・サポート制度について
2022年度	これからの時代の授業の在り方を考えようーオンライン・ハイブリッド・対面授業を経験してー トークテーマ1 オンライン授業ならではの「良さ」は？／トークテーマ2 対面授業ならではの「良さ」は？／トークテーマ3 オンライン・オンデマンド授業に向いている科目、向いていない科目とは？／トークテーマ4 これからの授業形態の可能性

さて、2023 年度は 4 年ぶりに全面的に対面授業のみとなった年度である。昨年度は原則対面授業としながらも、状況に応じてハイフレックスや ZOOM 配信を行ってきた。この 3 年間という月日のブランクは長く、毎日登校することへの不安を漏らす学生の声も年度当初にはあった。また、対面授業ではあるが ICT を使用した授業内容が多数取り入れられている授業もあり、その扱い、取り決めに授業間で差が生じて学生の中に戸惑いがあることも把握されていた。例えば授業中にスマホで調べ物をしてよいのか、あるいは授業資料を授業中にパソコンで開けて書き込みをしていいのか、ノートをパソコンでとった場合の試験時の持ち込みの問題等などである。そこで、在学生 1～4 年生が社会情勢に対応して異なった授業形態で学んできたことを踏まえ、コロナ禍に爆発的に進んだ ICT を使用した学びの形態に関して学生達の実情を知り、今後の授業での ICT の活用の可能性や留意点など話し合う会にしたいと考えた。全体テーマは「授業における ICT の有効な活用方法を考えよう」とし、トークテーマについては、参加募集を行った際に学生の意見も募集し、決定した。

2. 実施概要

■学生募集

期 間：2023 年 11 月 14 日～12 月末日（12 月 10 日の締め切りを延長した）

募集方法：メール告知と FD 委員による声かけ（各学科 2、3 人選出）

申し込み方法：Microsoft Forms

■当日の記録

【日 時】2024 年 1 月 11 日（木）16:20～18:00

【方 法】対面開催

【場 所】751 アクティブラーニング教室

【参加者】28 人（学生 17 人 教職員 11 人）学生の申し込みは 19 名。欠席 2 名。早退 1 名。

（1）プログラム

1	開会挨拶、趣旨説明	10分
2	グループワーク（自己紹介を含む）	50分
3	グループ発表（各5分×4グループ）	20分
4	質疑応答	10分
5	アンケート記入・閉会挨拶	10分

（2）交流会の目的

企画趣旨にのっとり、今年度はオンライン授業に限らず、授業において ICT（Information and Communication Technology；情報通信技術）を有効に活用する方法について意見交換を行い、今後のよりよい授業展開に向けた手がかりを見出すことを目的とする。

(3) グループミーティングの編成

グループの編成に関しては、従来は事前に 2 から 3 学科の参加者でグループを編成したが、より多くの他学科の学生と交流したいという学生からの意見が多く聞かれたため、今年度は各学科 1 名ずつが別のグループに入る、似たような学科からの参加者が重ならないように配慮して編成した。組み合わせを考えてくじを作り、学生は当日くじを引くことで初めてグループ分けされるという形をとり、各学科教員はバランスよく、自身の学科の参加者がいるグループのどこかに入る形をとった。結果は以下の通りである。

グループ 1：4 学科（幼教・福祉・健康・心理各 1 名。食品欠 1）、教員 3 名（幼教・健康・大学院）

グループ 2：4 学科（健康・食品・文芸・社会デザイン各 1 名。幼教欠 1）、教員 2 名（食品・文芸）

グループ 3：5 学科（幼教・児教・健康・文芸・心理各 1 名）、教員 2 名（心理・社デ）

グループ 4：4 学科（児教・福祉・食栄・社会デザイン各 1 名）、教員 2 名（児教・福祉）

(4) グループミーティングの進め方・グループ発表の方法

当日は（3）で示したように 4 つのグループに分かれミーティングを行った。

ミーティングはブレインストーミングの形式で自由に話し合い、アイデアを付箋に書きだしてグルーピングし、模造紙上に整理、タイトルを考え、ポスターを作成。ポスターを示しながらグループごとに発表した。

(5) グループミーティングの結果

以下より、各グループのミーティング結果を示す。

トークテーマ 1 ICT ツール（スマートフォンやタブレット、PC 等）を授業でどのように活用しているか

全体的には学科による違いが浮き彫りになった。例えば幼教は子どもの映像などを見ることはあるが、実習日誌などが手書きのため、記録を手書きで提出することが多い。また、授業資料やパワーポイントはユニパで配布されるが、授業中にそのデータにダイレクトに書き込む、入力してノートを作成することはできない。一方福祉は似たような学科だがパワーポイントにメモを入力してノート作成をすることができる。

また、授業時に映し出されたパワーポイントなどが資料として配布されず、配布を希望する声も挙がった。

講義授業はほぼ全部板書が無く、スライドを映すことで行われるという学科もある一方で、講義で ICT を使用することはほとんどないと回答する学科もある。

テスト、アンケートは Google Forms を、リアクションペーパーや課題提出は UNIPA を使用している学科が多い。ただ forms だと文章が見えなくなることがある、字数がカウントしにくいなどのマイナス面が、UNIPA だと接続が悪く、課題をしている時に接続が切れて内容が消えてしまい最初からやり直しになるなどのマイナス面が挙がった。

出席をスマホから UNIPA に登録することに関してはアクセスが集中して入力できないことがある、欠席者が出席している等の指摘があった。

その他具体的な活用例を以下にまとめる。

- ・授業内容に関連した映画を見る。
- ・模擬保育などタブレットなどで映像を記録することで振り返りが充実した。
- ・リアルタイムで先生のスライドに疑問に思ったことが反映される機能を使う授業がある。
- ・資料は共有するスライドの方が教室で見ると見やすい。
- ・模擬授業で QR コードをワークシートに貼り付け、調べ学習をした。
- ・理科でプログラミングのアプリを使い自分で工夫するのが楽しかった。「MESH」というアプリを使用し、人感センサーについての仕組みを学んだ。
- ・グループワークで Google Jamboard を使ったり、クリッカーでコメントを集め一覧できるようにしている。
- ・デザイン系では写真加工など行い、動画を作成している。
- ・調理実習をオンラインで配信し欠席者も見られるようにしている。
- ・「情報社会とコンピューター」の授業ではオンデマンドと対面の授業の両方を使用しているのが良かった。

トークテーマ2 これからの ICT 活用の可能性

同じ意見があったものとして、メタバースの使用が挙げられる。さいたま市で不登校の子供がメタバースで授業に参加しているという実践例からの提案と思われる。メタバースで大学内を作り、メタバースで大学に来る(マイク機能あり)。オープンキャンパスに活用し、メタバースでキャンパス案内をするなどである。

以下、可能性として挙げられたことを列挙する。

- ・ICT を用いて外国の人や離れたところにいる人と交流し、興味を拓げ、深めることができる。
- ・オンデマンド授業、オンライン試験、全員で書き込み共有する課題などを実施し、場所の縛りをなくす。
- ・卒業後に役立つ知識を得たい。ネットに詳しくなりたい。例えば voice record で情報共有し、文章化は translation を使うなど。
- ・PC メモの修正、校正ができるように。
- ・まとめアプリや AI の活用。
- ・合唱之練習用伴奏動画を用いて効率よく個人で準備できると対面では合わせることに、アンサンブルに時間をかけられる。
- ・ロイロノートというアプリを使って、一度にクラス全員の意見を見ることができて有効的だと感じた授業を小学校で見た。有効なアプリの活用。
- ・自分の発表など録画して振り返りや客観視に役立てる

これら以外にユニパの有効活用、例えばレポートの返却をユニパからできないか、タブレットの使用の推奨、実習、実験でのパソコンの使用の他、大学の電波状況、Wi-Fi 環境の改善、充電できる場所の確保、シュレッダー、プリンターの充実、データを扱う際の基礎知識の充実などが挙げられた。

3. 事後アンケート

事後アンケートを学生、教員に向けて実施した。提出は Microsoft Forms である。

(1) 学生 (回答 16 名)

① 交流会の参加について

参加してよかった	13
普通 (特になし)	3
参加したくなかった	0

② 参加学生や教員に自分の意見を伝えられたか

伝えられた	7
まあまあ伝えられた	9
伝えられなかった	0

③ 交流会は、今後も実施したほうがよいか

実施したほうがよい	15
どちらでもない	1
実施しなくてもよい	0

④ 感想 (自由記述)

- ・学科によっても授業によっても ICT の使い方に違いがあることが分かり有効的に使う方法も知ることが出来た。ICT は工夫をすればどんな使い方も出来ると思うので学びによりよく活かせるようにしていきたいと思った。
- ・自分の学科の現状と他学科の ICT の使用状況を比較し、「自分の学科もこうしてほしい」と思い、それをグループ内で発表することができた。
- ・ICT の活用に関しては、便利になる一方で、抜け道ができてしまうことがあるということを感じた。全てにおいて ICT を活用するのではなく、使用した方がメリットが大きいもの、使用したらデメリットが生じるものを分けて、メリハリをつけて用いるのが良いと思う。
- ・学科によって ICT の活用非常に大きな差があることが分かった。より良い授業のために、学生のためだけでなく教員のためにも、変わって欲しいと思った。
- ・他学科の授業について多く知ることができた。資格のための授業が多い学科とそうでない学科で授業形態が大きく違っており、学内で ICT 化の足並みを揃えることの難しさを感じた。授業内で学びを深めていくため上手く ICT を活用していきたい。
- ・今回初めて参加して他学科の授業スタイルを知ることが出来て良かった。やってみて、グループ分けをしなくても全体で話し合うでも良いかなと思った。最終的に全体討論をした雰囲気になったのでグループ分けしなくても良かったのではないかと感じた。グループに居ない学科も居る

ので全体でやることで全学科がいるからこそその話し合いなのかなと思った。

- ・他学科と交流することがなかったので、こうして他学科の方たちと交流できたのは良かった。私が困っていることやいいと思ったことを他の人たちも共感してくれたり、こうすればよくなるという意見を沢山聞けたので、こうした場を作ることは良いなと感じた。
- ・私自身初対面の方との距離を縮めることが苦手なので、同じ学科の仲間が同じグループにいた方が心強いと思った。他学科の授業の様子や ICT の活用について聞くと、自分の学科はかなりアナログな面が多いのだなと気づいたと同時に、他学科では授業時にタブレットやパソコンをよく利用することや初めて聞く利用方法もあり、とても新鮮だった。
- ・自身のこれからの勉強になった。
- ・他の学科のお話を聞いて、こんな ICT の使い方があるんだ！と学ぶ点が多かった。
- ・自分自身の思っていた改善してほしいことや続けてほしいところを、しっかりと先生方に伝えられたことが良かった。また、先生方の ICT を活用するにあたり大変な部分も理解することができてとても良い時間だった。これからは、ICT を活用するにあたり先生方や生徒で、授業での活用方法をもう少し明確にし、理解し合えることが大切だと思った。
- ・考えてもいなかったことが他学科では実施されている事が多々あったり、自分の学科ではやっているのに他学科ではやってないことなどがあって、初めて感じたことが多かった。ICT は便利だけど不便な点もあることを改めて感じたり、他のグループの意見を聞いて勉強方法の幅が広まったりと、いい点も改めて知ることができた。他学科の方々とのグループ活動は良い機会だと思った。
- ・他の学科でも同じことを思っている学生が多いんだなということや、自分は知らなかった他学科の声も聞くことができて面白かった。
- ・ICT などの開催テーマに限らず、自由に授業に対して意見できる時間が事前に設けてあればなお良いと感じた。
- ・先生側の意見を知ることができて、良かった。
- ・他学科の授業での様子を知れて、自分の学科の授業でも活用できることがあるなと感じた。この会を経て、これからの学校生活がより良いものになるといいなと思った。

(2) 教員 (回答 7 名)

① 交流会の参加について

有意義だった	6
普通 (特になし)	1
よくなかった	0

② 学生の直接的な声を聞くことができたか

できた	6
ある程度できた	1
あまりできなかつた	0
できなかつた	0

③ 交流会の企画継続について

実施したほうがよい	6
どちらでもよい	1
実施しなくてよい	0

④ 次回開催に向けてのアイデア (自由記述)

- ・どの学科も学生の選出に大変ご苦労されている状況であるため、会の趣旨を改めて検討してもよいのではないか。
- ・このテーマ引き続き必要。
- ・各授業について、予習復習の時間を十分にとることが求められている。そのためには授業の進め方や構成をどのようにしたら良いか、学生と話し合う機会があれば嬉しい。
- ・私が参加したグループ 4 では、UNIPA の利用に関する意見が多かったこともあり、一度、情報センターも交えて、教員の利用実態、学生の利用実態を確認した方がよい。
- ・交流会テーマを事前に学生から募り、どのテーマに関心があるか全学的に発信しながらテーマを絞り、設定していくといったプロセスはいかがか。
- ・シラバスと実際の授業の相違について、文芸の学生が指摘していた。やはり真面目な学生はシラバスをきちんと読む。また、次年度掲載シラバスからはルーブリックが掲載されるので、シラバスやルーブリックの活用について、学生と考えてもよい。
- ・オンデマンド型授業が今後増えていくように思う。オンデマンド授業であっても、双方向性が確保できる授業や、学生が理想と考える授業について考えられたらいい。
- ・生成系 AI の話題もタイムリーではないか。

⑤ 意見、感想、改善点

- ・テーマが広がったこともあって、グループごとにかなり話している内容が異なっている、という印象を受けた。いろいろな話が聞けて良いとも思ったが、同時に、少し瑣末な話に流れてしまう印象もあったので、テーマ設定をもう少し焦点化の方が良いかもしれない。
- ・専門分野により学習方法、内容がかなり異なることが分かった。学科を越えた交流で視野を広げることは意味があると思う。
- ・他学科の学生さんの声が聞けて良かった。
- ・貴重な授業改善のヒント、アイデアが学生の生の声で出されたことは、本交流会の狙いが達成できたものと思う。学生から出されたアイデアを真摯に受け止め、いかに反映するか、教員の責務と考え、全学的に発信していきたい。
- ・朗らかな雰囲気での活動ができたと思う。

4. まとめ

昨年の学生の希望を汲んで、今回は学科ごとではなく、一グループに沢山の学科代表が入るようグループ分けしたところ、初対面は苦手なので同じ学科の仲間がいたほうがよかったという意見もあったが、今回のテーマの話し合いには有効だった。最初こそ、遠慮して様子をうかがっていたが、一人が話すとはやはり学科による差異が興味深かったのか、次々と自分の学科での様子を披露し、話し合いにも発展する姿が見られた。学生と教員の交流会でもあり、教員も意見を述べることで教員や大学に対する学生の理解が深まり、先生の気持ちがわかってよかったというアンケート回答が今年も見られた。また、会を18時終了と10分ではあるが延長したこと、トークテーマを2点に絞り込んだことで、時間不足という感想は今回は見られなかった。

教員の立場からも学科によってこれほどの違いや様々な授業方法があることが分かり、大変参考になったのではないかと思われる。もちろん学びの内容によっての違いはあるものの、これからの教育を考えるにあたって、避けては通れない問題にまず向き合ったというところではないか。今後もこうした交流会を重ねて、より良い学びの場の実現につなげていきたいと考える。

かねてより課題となっている学生たちから出された意見へのフィードバックの方法は、引き続き検討しなければならないであろう。交流会の成果を示し、共により良い学びを作り上げていく基盤となれば幸いである。

以上